

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

第2節 教育課程・教育内容

1. 現状の説明

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

〈1〉大学全体

本学では、大学学則に「共通教育科目」「専門教育科目」「教職に関する科目」「日本語科目」「日本事情に関する科目」を開設することが定められている(4-7 第10条)。専門教育科目については学部・研究科の項に譲り、本項では、共通教育科目、教職に関する科目、日本語科目・日本事情に関する科目について説明する。

本学の場合、大学全体で3264.5コマ(隔年開講科目を0.5コマと換算)開講するうち、共通教育科目が24.1%にあたる787コマを占めている(4-8)。総開講コマの4分の1近くを占めているのは、大学カリキュラム・ポリシーが掲げる「学生がキリスト教的価値観を基盤として豊かな人間性を支える教養を身につける」のに十分な科目を提供していると判断できる。

次に共通教育6領域における授業科目の開設状況について見ておく(4-9 学部 pp. 12-21)。「建学の精神を学ぶ科目(金城アイデンティティ科目)」は、必修科目「キリスト教学」2科目4単位に加え、選択科目「①キリスト教」「②女性」「③国際理解」の中から2テーマにわたり4単位取得することを求めている(4-10)。この領域では、必修科目でキリスト教的価値観を理解し、選択科目で、本学の理念に基づく教養を身につけられることをめざしている。

「現代社会の教養の基礎となる科目」である「④教養基礎科目」のうち、2科目4単位が卒業要件単位となっている。薬学部は6年制のため、これが3科目6単位に増え、さらに薬剤師になるために必要な「倫理学」「心理学」「法学」の3科目6単位を必修としている。教養基礎科目と「幅広く教養を身につける科目」である「⑤教養展開科目」は、豊かな人間性を支える教養を身につける科目と位置づけられる。

「現代社会に必要なリテラシーを身につける科目」としては、「⑥英語教育科目」「⑦外国語教育科目」「⑧情報教育科目」「⑨キャリア開発教育科目」を開設している。

英語教育科目は、1年次および2年次で8科目8単位を取得することが求められる。ただし、英語英米文化学科および外国語コミュニケーション学科は、専門教育科目に英語教育を取り込んでいるため、共通教育では英語教育科目を履修することができない。英語教育科目は、すべての学生が英語でコミュニケーションできることをめざしており、異文化に生きる人々とのコミュニケーション手段を獲得するための科目と言うことができる。8科目以外に、3年次には4科目の選択科目が開講されており、さらに高度な英語を学びたい学生に対して学習機会を提供している。

外国語教育科目は、5言語それぞれ8科目開講している。英語だけでなく、複数の外国語を学ぶことで、異文化に生きる人々とコミュニケーションできる可能性を増やし、文化を相対的に見ることができるようになる。そのため、英語を専門教育科目で学ぶ英語英米文化学科のみは、いずれかの言語で8科目8単位取得が卒業要件単位となっている。外国語コミュニケーション学科は、専門教育科目に中国語、フランス語、ドイツ語の外国語教育を含んでいるため、共通教育科目では韓国・朝鮮語とスペイン語に関する科目のみ履修

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

可能となっている。

情報教育科目のうち、「情報リテラシー」は、情報化社会で生きていくために必要となる知識や技能の中でも、基礎的な内容を学ぶ科目である。すべての学生が学ぶことができるよう、各学科に向けたクラスが開講されているが、特に情報リテラシーを重視する生活マネジメント学科、環境デザイン学科、食環境栄養学科、薬学科では、2単位を必修としている。このほかに、選択科目「IT活用」を開講し、さらに高度な情報知識と技能を学びたい学生に対して科目を提供している。その中でも、「IT活用H」は、コンピュータと薬学について学ぶ科目であるため、薬学科は2単位を必修としている。

キャリア開発教育科目は、必修科目「キャリア開発A・B」(3単位)および選択科目が開講されており、人生を積極的に切り開く主体性を、授業を通して身につけることをめざしている。食環境栄養学科は「キャリア開発B」(1単位)のみ必修とし、薬学科は2科目とも必修としていないが、これは専門教育科目で管理栄養士と薬剤師としてのキャリアについて学んでいるためである。

「スポーツを通じて健康増進を図る科目」として「⑩S&E教育科目」が開講されている。S&E教育科目は、スポーツの種目別に「スポーツ・アンド・エクササイズ」を開講し、すべての学生は、1年次と2年次にそれぞれ1科目履修し、卒業までに2単位を取得することが求められている。さらに3年次に「スポーツ・アンド・エクササイズH」を開講し、学生の生涯にわたる健康づくりを支援する編成となっている。

「アクティブ・ラーニング科目」として「⑪プロジェクト科目」を開講している。この科目は、学生自身が計画を立て、担当教員の指導を受けながら、自らの学びを実現することをめざすものである。これは、能動的に学ぶ姿勢を身につけさせる目的に合致する授業科目として、2011年に新設した。

前記の6領域以外に、本学では、教職課程として「教職に関する科目」を開講している。これは教員免許取得のために開設された科目であり、共通教育科目と専門教育科目の必要な科目を合わせて単位を取得することで、免許状に必要な条件を満たし、教員としての専門的な知識と技能を習得することができる。

これ以外に、外国人留学生のみが履修できる日本語科目および日本事情に関する科目を開講している。日本語と日本事情の学びを通して、外国人留学生も相手の言うことを理解し、自らの考えを適切に伝えることができるようになる。

以上のように、本学の共通教育科目においては、大学ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを踏まえ、適切な授業科目を開講し、適切な卒業要件単位を設定していると言える。また、教職に関する科目、日本語科目・日本事情に関する科目においても、免許状の取得や日本語運用能力の向上、日本事情の理解という目的に沿った教育課程を編成している。

本学の教育課程の編成については、在学意識調査において学生からの評価を確認できる。意識調査には、授業科目の種類に対する満足度が含まれ、80.3%の学生が肯定的な評価(「満足している」「どちらかといえば満足している」)をしており、本学として十分な教育課程を編成していると考えられる(4-11問22)。

〈2〉文学部

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

文学部の卒業要件総単位数は、日本語日本文化学科、英語英米文化学科、外国語コミュニケーション学科が128単位、音楽芸術学科は124単位である（4-9 学部 p.10）。このうち、専門教育科目の卒業要件単位は、日本語日本文化学科、英語英米文化学科、音楽芸術学科が70単位であり、外国語コミュニケーション学科は78単位である。各学科では、専門教育科目として言語文化と音楽芸術について学ぶ科目を開設しているが、展開科目には、4学科すべてに「文学部リベラルアーツ」と呼ばれる科目群を開設し、専門領域だけでなく、広く文化と芸術を学ぶことを可能にする教育課程を編成している。

①日本語日本文化学科

日本語日本文化学科では、基礎科目（6単位必修）において、1年次に日本語と日本文化に関する入門講義を行う（4-9 学部 pp.24-35）。学科共通としての基幹科目（4単位必修）において、言語技術とコンピュータの技能を身につけ、展開科目では、専門教育の発展的科目と資格関連科目を開設している。3コース（古典文化、近現代文化、日本語学・日本語教育）は、基幹科目（各コース8単位必修）と展開科目において、それぞれの専門領域における知識を深める科目を開設している。また、演習科目（12単位必修）において、1年次から思考力とコミュニケーション力を身につけ、卒業論文作成までの段階的な教育を行っている。

②英語英米文化学科

英語英米文化学科では、基礎科目（10単位必修）において、1年次に英語と英米文化に関する入門講義を行い、基幹科目（31単位必修）において、1年次から段階的に英語運用能力を身につける科目を開設している（4-9 学部 pp.36-43）。展開科目（各コース8単位必修）は、学科共通部分とコース別部分に分かれ、専門教育の発展的科目と2コース（英米文化研究、英語研究）の知識を深める科目を開設している。また、すべての学生向けの演習科目（6単位必修）において、1年次から日本語と英語による思考力とコミュニケーション力を身につけられるようにしている。

③外国語コミュニケーション学科

外国語コミュニケーション学科では、基礎科目（4単位必修）において、世界の言語および文化に加え、コミュニケーションに関する入門講義を行う（4-9 学部 pp.44-48）。基幹科目（英語12単位必修、中国語、フランス語、ドイツ語のいずれか12単位必修）では、段階的に外国語の運用能力を身につけるため、1年次2年次とも、英語ともう1つの外国語をそれぞれ6単位必修とし、さらに上級外国語科目や多くの選択外国語科目を開設している。展開科目では、世界のさまざまな文化と多文化共生を発展的に学び、日本語教育の知識と技能を身につける科目を開設している。また、演習科目（8単位必修）では、1年次から日本語と外国語による思考力とコミュニケーション力を身につける授業を行っている。

④音楽芸術学科

音楽芸術学科では、基礎科目（10単位必修）において、音楽の理論と歴史に関する入門講義を行い、基幹科目（各コース12単位必修）において、1年次から段階的にピアノ、声楽、管楽器の演奏技術を身につける科目を開設している（4-9 学部 pp.49-57）。展開科目では、A群、B群で音楽芸術について発展的に学び、C群、D群では教養（文学部リベラルアーツ）について学ぶ授業を行う。3年次からの演習科目（4単位必修）では、学生が

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

専門領域に関する思考力を身につけられるようにしている。

〈3〉生活環境学部

生活環境学部の卒業要件総単位数は、3学科すべて128単位であり、このうち専門教育科目の卒業要件単位は、生活マネジメント学科と環境デザイン学科が70単位、食環境栄養学科は98単位である。**(4-9 学部 p. 8)**。各学科では、豊かな生活を実現するための知識と技能について学ぶ専門教育科目を開設しているが、学部基礎科目(2単位必修)を3学科共同で運営している。

①生活マネジメント学科

生活マネジメント学科では、学科基礎科目(26単位必修)において、生活経営、消費者保護、家族福祉、情報の専門領域に関する概論となる科目を開設している**(4-12 学部 pp. 22-24)**。展開科目群では、各専門領域における発展的な学ぶ科目を開設し、研究科目群(10単位必修)では、1年次から生活に関わる諸課題を解決できる力を身につけられるようにする。また、資格関連科目群では、将来に役立つ資格取得をめざす科目を開設している。

②環境デザイン学科

環境デザイン学科では、学科基礎科目において、デザインに関する基礎を学ぶ科目を開設している**(4-12 学部 pp. 25-34)**。展開科目では、3コース(アパレル・ファッション、インテリア・生活環境、住宅・都市環境)の領域における専門知識と技能を身につけ、研究演習科目(3単位必修)と特別研修では、専門知識と技能を活用し、望ましい環境の実現をめざすために必要な思考力と実践力を身につけることを求めている。また、資格関連科目では、将来に役立つ資格取得をめざす科目を開設している。

③食環境栄養学科

食環境栄養学科では、学科基礎科目(8単位必修)において、管理栄養士となるために必要な専門知識を系統的に身につける科目を開設している**(4-12 学部 pp. 35-36)**。展開科目(82単位必修)では、専門知識を発展的に学び、実験実習を通して、専門的な技能と実践力を身につけ、研究演習科目群(3単位必修)では、1年次から学生が演習形式によって将来に必要な思考力と実践力を身につけることをめざす。また、資格関連科目では、将来に役立つ資格取得をめざす科目を開設している。

〈4〉現代文化学部

現代文化学部の卒業要件総単位数は、国際社会学科とコミュニティ福祉学科が128単位であり、情報文化学科が129単位である**(4-13 学部 p. 10)**。このうち専門教育科目の卒業要件単位は、国際社会学科が78単位、情報文化学科が71単位、コミュニティ福祉学科が70単位である。各学科では、現代社会の文化を切りひらく実践的な女性を養成することをめざす科目を開設しているが、学部基礎科目(3単位必修)を3学科共同で運営している。

①国際社会学科

国際社会学科では、学科基礎科目において、理論と実践を通して国際社会の主要潮流を理解し、スキルを身につける科目(8単位必修)において、英語をはじめとする外国語と情報技術を身につける科目を開設している**(4-13 学部 pp. 24-26)**。テーマを学ぶ科目にお

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

いて、国際社会への問題関心を高め、社会科学的研究方法を身につける科目を開設している。また、演習科目（7単位必修）では、学生に演習形式を通して国際問題に対する解決策を考えさせ、それを卒業論文（8単位必修）としてまとめられるようになることをめざしている。

②情報文化学科

情報文化学科では、学科基礎科目（2単位必修）において、情報文化とコンピュータの基礎を学び、展開科目において、情報技術、デジタル表現、マスコミ・ビジネスの領域において幅広い学びが実現できることをめざしている（4-13 学部 pp. 27-28）。演習科目（6単位必修）では、実践的な情報技術の基礎と応用を学び、卒業論文・卒業制作（8単位必修）として専門教育で学んだ知識と技能を集大成できるような段階的教育を行っている。

③コミュニティ福祉学科

コミュニティ福祉学科では、学科基礎科目（18単位必修）において、社会福祉領域の基礎を学び、展開科目では、社会福祉の専門知識と技能および福祉社会の課題について学ぶ科目を開設している（4-13 学部 pp. 29-31）。また、演習科目（5単位必修）と卒業論文（8単位必修）において、学生が個人だけでなく集団や地域社会に対して専門的に働きかける実践力を身につけられるようにしている。

〈5〉国際情報学部

国際情報学部国際情報学科の卒業要件総単位数は、124単位であり、このうち専門教育科目の卒業要件単位は、74単位である（4-14 学部 p. 5）。

国際情報学科では、基幹科目（16単位必修）において、専門教育の入門または概論に加え、海外研修のための科目を開設している（4-14 学部 pp. 20-25）。展開科目においては、教育研究上の目的に掲げられた「国際社会」「地域研究」「現代社会」「国際ビジネス」「女性リーダーシップ」「広告ビジネス」「マスコミ」「情報デザイン」「情報技術」を横断的に学びつつ、それぞれのテーマでは系統的に学ぶことが可能になるよう教育課程を編成している。実践・応用科目では、将来的に役立つような知識と技能の実践や資格取得に関わる科目を開設している。2年次からの演習（6単位必修）と卒業論文・卒業制作（4単位必修）において、演習形式の科目を通して、学生が女性のリーダーシップを発揮できる思考力と実践力を身につけられるようにしている。

〈6〉人間科学部

人間科学部の卒業要件総単位数は、すべての学科が128単位であり、このうち専門教育科目の卒業要件単位は、現代子ども学科、心理学科社会心理学専攻、臨床心理学専攻、コミュニティ福祉学科、芸術・芸術療法学科が70単位、多元心理学科が72単位である（4-15 学部 p. 10、4-16 学部 p. 8）。各学科では、人間への総合的な探求をめざす科目を開設しているが、学部共通科目を、現在は現代子ども学科、多元心理学科、コミュニティ福祉学科の3学科で運営している。

①現代子ども学科

現代子ども学科では、学科基礎科目において、子ども、発達、教育、保育に関する概論となる講義を行う（4-15 学部 pp. 24-26）。学科展開科目と資格関連において、幼児、初等・

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

中等教育、保育の内容指導法を身につけるような科目を開設している。演習（7単位必修）と卒業論文・卒業制作では、1年次から学生が子どもや家族が置かれる社会状況について思考力を段階的に身につけることをめざしている。

②多元心理学科

多元心理学科では、学科基礎科目（12単位必修）において、心理学的思考を具体的に学び、心理学周辺の学問領域についても目配りする講義と演習を行う（4-15学部 pp. 27-29）。学科展開科目では、複数のユニットを履修することで、心理学を多角的に学ぶことができる科目を開設している。演習科目（8単位必修）と卒業論文において、1年次から学生が専門知識に基づいたデータの収集分析、考察検討を段階的に身につけられるようにする。また、資格関連科目では、将来に役立つ資格取得をめざす科目を開設している。

③心理学科社会心理学専攻

心理学科社会心理学専攻では、学科基礎科目（6単位必修）において、心理学を基礎とした知識と技能を身につけられる講義と演習を行う（4-16学部 pp. 23-25）。また、学科展開科目（2単位必修）および社会心理学専攻展開科目と臨床心理学専攻展開科目では、対人関係や集団などにおける多様な心理的現象を理解できるように、心理学の発展的内容を学ぶ科目を開設する。演習（8単位必修）と卒業論文において、1年次から学生が専門知識に基づいたデータの収集分析、考察検討を段階的に身につけることをめざしている。また、資格関連科目では、将来に役立つ資格取得をめざす科目を開設している。

④心理学科臨床心理学専攻

心理学科臨床心理学専攻では、学科基礎科目（6単位必修）において、臨床心理学の基礎的内容を学ぶ講義を行う（4-16学部 pp. 26-28）。また、学科展開科目（2単位必修）および社会心理学専攻展開科目と臨床心理学専攻展開科目では、臨床心理学における人間理解や対人援助を発展的に学ぶ科目を開設している。演習科目（8単位必修）と卒業論文において、学生が自己理解を通して他者理解を体験的に身につけることをめざしている。また、資格関連科目では、将来に役立つ資格取得をめざす科目を開設している。

⑤芸術・芸術療法学科

芸術・芸術療法学科では、学科基礎科目において、芸術や芸術療法の基礎を学ぶ科目を開設する（4-17学部 pp. 30-32）。学科展開科目では、学生が専門領域に関する高度な知識と芸術表現や芸術療法的援助などの実践力を身につけることをめざしている。演習（8単位必修）では、1年次から芸術学や芸術療法学の方法を用いて問題を適切に分析できるように、段階的に教育し、卒業論文・卒業制作・卒業演奏で学習した成果を発表することをめざしている。

⑥コミュニティ福祉学科

コミュニティ福祉学科では、学科基礎科目（6単位必修）において、社会福祉領域の基礎を学び、学科展開科目では、コミュニティ形成を担う知識と技能を学ぶ科目を開設している（4-15学部 pp. 30-32）。また、演習科目（6単位必修）と卒業論文（6単位必修）において、1年次から学生が専門領域における知識と技能を段階的に身につける教育を行っている。

〈7〉薬学部

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

薬学部薬学科の卒業要件総単位数は、188 単位であり、このうち専門教育科目の卒業要件単位は、148 単位である（4-18 学部 p. 10）。

薬学科では、1 年次 2 年次の基礎科目（16 単位必修）において、薬学分野の専門知識を身につけ、2 年次から 4 年次までの基幹科目（30 単位必修）において、「基礎科目」で学んだ専門知識をさらに深める講義を行う（4-18 学部 pp. 24-26）。2 年次からの展開科目（26 単位必修）において、薬剤師、薬学士として幅広く活用できる発展的な知識を学び、実習科目（33 単位必修）においては、修得した専門知識に基づいた基礎的技能と態度が身につけられる実践科目を開設している。演習科目（27 単位必修）と卒業研究において、学生が専門知識と技能を活用した実践力とコミュニケーション力を、初年次教育の「薬学 PBL」から、段階的に身につけられるようにしている。また、資格関連科目では、教員免許取得に必要な科目を開設している。

〈8〉文学研究科

文学研究科の修了資格は、前期課程が 30 単位以上を修得と修士論文または特定課題の合格、後期課程が 16 単位以上の修得と博士論文の合格となっている（4-19 pp. 30-31）。

①前期課程

前期課程においては、国文学専攻では、国文学関連科目、国語学・日本語教育関連科目、の科目区分に、特論、演習、特殊研究を配置する（4-19 pp. 21-29）。英文学専攻では、英米文学関連科目、英語学関連科目、通訳関連科目、英語教育関連科目の科目区分に、特論と演習を配置し、各領域研究を補強する特殊専門関連科目に、特殊研究を配置する。社会学専攻は、基礎科目に「社会学概論」を開設し、国際社会論関連科目、情報社会論関連科目、福祉社会論関連科目の科目区分に、特殊講義と演習を配置し、専門社会調査士養成に関わる資格関連科目に「社会調査演習」「国際社会論演習」を開設する。いずれも修士論文完成に向けた研究指導と論文作成指導を行うとともに、専門的職業人の養成にも対応した教育課程を編成している。

②後期課程

後期課程においては、国文学専攻では、古典文学研究、近現代文学研究、国語学・日本語教育研究の科目区分に、英文学専攻では、英文学研究、言語学研究の科目区分に、特殊講義と演習を配置している。社会学専攻では、現代社会論関連講義科目に特殊講義を配置し、現代社会論関連演習科目に演習を配置している。いずれの専攻においても学位論文や学会発表論文の作成に必要な対話形式の授業を可能にする教育課程を編成している。

〈9〉人間生活学研究科

人間生活学研究科の修了資格は、前期課程が 30 単位以上を修得と修士論文または特定課題の合格、後期課程が 6 単位以上の修得と博士論文の合格となっている（4-19 pp. 59-60）。

①前期課程

前期課程においては、共通科目として「人間生活学研究法」を開設し、消費者科学専攻では「消費生活特論」「消費生活特論研究演習」「生活の質特論」「生活の質特論研究演習」に加え、「特別研究」を開設する（4-19 pp. 45-49）。人間発達学専攻では、発達分野に「発達環境学特論」「発達環境学研究演習」を、臨床心理学分野に「臨床心理学特論」「臨床心

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

理学査定演習」「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理学研究演習」に加え、「特別研究」を開設する。いずれも修士論文完成に向けた研究指導と論文作成指導を行うとともに、臨床心理士などの専門的職業人の養成にも対応した教育課程を編成している。

②後期課程

後期課程においては、人間生活学専攻では、消費者科学領域、人間環境学領域、人間発達学領域の科目区分に、特殊講義と研究演習を配置し、学位論文や学会発表論文の作成に必要な対話形式の授業を可能にする教育課程を編成している。

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

〈1〉大学全体

本項では、共通教育科目、教職に関する科目、日本語科目・日本事情に関する科目について、教育内容として必修科目の内容と選択科目の特徴について述べることにする。

金城アイデンティティ科目のうち、「キリスト教学(1)(2)」は必修である。この科目は、キリスト教と金城学院との関わりを学んだ上で、聖書とキリスト教史を概観し、現代社会におけるキリスト教の位置づけを学ぶ(4-20 共通 p. 26)。学びを通して、本学の理念に沿ったキリスト教的価値観を理解することができるようになる。その上で、選択科目「キリスト教」(7科目)「女性」(6科目)「国際理解」(7科目)の20科目を学ぶが、その特徴としては、「芸術とキリスト教」「現代とキリスト教」「キリスト教精神と医療」「文学とキリスト教」「性差の科学」「世界の医療事情」など複数担当者の科目が多い(4-20 共通 pp. 26-32)。これは、それぞれの専門分野から3テーマにアプローチすることで、本学の理念をさまざまな角度から捉え、学生に豊かな教養を身につけさせようとするものである。

教養基礎科目(24科目)は、「哲学」や「倫理学」など大別した学問領域を科目名称としており、学生はそれぞれの学問領域の基礎的な教養を身につけることができる(4-20 共通 pp. 33-42)。また、教養展開科目(74科目)は、各学科専門教育科目に近い学問領域のうち、すべての学生が履修することが望ましい部分を共通教育科目として開講している(4-20 共通 pp. 43-60)。教養基礎科目と教養展開科目を学ぶことで、学生が自らの専門分野と異なる学問領域にも目配りし、広い視野から問題解決を図ることができることをめざしている。

英語教育科目は、必修科目として「英語コミュニケーションA(1)(2)」(Speaking・Writing)「英語コミュニケーションB(1)(2)」(LL・Reading)「英語コミュニケーションC(1)(2)」(Speaking・Presentation)「英語コミュニケーションD(1)(2)」(Reading・Listening)を開講している(4-20 共通 pp. 61-76)。「話す」「聞く」「読む」「書く」という4技能を積み上げて学ぶことで、英語運用能力をバランス良く向上させようとする。さらに、選択科目として「英語コミュニケーションE(1)(2)」(Integrated English(総合英語))「英語コミュニケーションF(1)(2)」(検定試験対策(TOEIC対策))を開講し、本学の理念が謳う国際的に活躍する人材の育成をめざしている(4-20 共通 pp. 76-77)。

外国語教育科目として、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語の5言語を開講している(4-20 共通 pp. 78-90)。各言語では「ドイツ語」のように文法や読

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

解を重視する科目と「ドイツ語会話」のように会話を重視する科目に分かれており、日本と異なる文化に対する理解を深めながら、それぞれの言語でコミュニケーションできる能力を習得することをめざしている。

情報教育科目のうち、「情報リテラシー」は多くの学科において必修である。この科目では、基礎知識と操作法を学んだ上で、ワープロ、インターネット、表計算、プレゼンテーションの概要を学ぶ（4-20 共通 p. 91）。これらは、情報化社会に必要な知識や技能である。さらに、選択科目「IT活用」（8科目）では、動画作成や Web プログラミング、データベース、デスクトップ・パブリッシング、コンピュータ・デザインなど、コンピュータのさまざまな技能を学ぶ（4-20 共通 pp. 91-93）。

キャリア開発教育科目は、本学では進路支援との密接な関係があるため、その内容については第6章に譲り、ここでは省略する。

S&E教育科目（8科目）は、テニス、ゴルフ、バドミントン、卓球、バレーボール、ライトスポーツ、野外スポーツ実習、ヘルシーエクササイズなど幅広いスポーツができるようになっており、学生の健康づくりに貢献している（4-20 共通 pp. 97-100）。

プロジェクト科目は、「海外研修」「異文化体験」「ボランティア活動」「学生プロジェクト」に分かれている。「海外研修」は、北米、イギリス、オーストラリア、中国、その他の学習プログラムに参加し、そこで得たものを総括することで単位を取得できる（4-20 共通 pp. 101-102）。「異文化体験」「ボランティア活動」「学生プロジェクト」は、対象となる活動について、担当教員の指導を受けながら、活動を通して得たものを総括することで単位を取得できる（4-20 共通 p. 102）。いずれの科目も、どんな活動をするか、どこで活動するかは、学生自らが見つけなければならない、学生に能動的に学ぶ姿勢を身につけさせようとするものである。

教職に関する科目については、その教育内容は、教職課程申請の際に文部科学省に認められたものである（4-20 共通 pp. 103-121）。申請した内容と異なることがないように、教職課程委員会では常に教育内容を精査している。

日本語科目については、「日本語 211」から「日本語 422」まで番号が振られ、日本事情に関する科目については、日本社会をさまざまな側面から理解できるような内容としている（4-20 共通 pp. 122-128）。日本語科目に番号が振られているのは、外国人留学生の日本語運用能力に合わせてクラス分けしやすくするためである。これらの科目の教育内容は、本学に在籍する外国人留学生の状況を見ながら、国際交流センター委員会で検討している。

本学では、科目の概要がシラバスに記されており、その教育内容を確認することができる。本項で取り上げた授業科目については、共通教育委員会で毎年シラバスをチェックしており、その教育内容が常に適切なものとするよう努力している。

〈2〉文学部

学部・研究科については、教育内容として特徴的な科目を取り上げて、教育課程の編成・実施方針との関連という視点から説明することにする。

文学部4学科が共同して運営する「文学部リベラルアーツ」では、4学科教員が担当して国内外の古典を学ぶ「世界と日本のクラシック」を2014年度から始めるなど、学生が言語文化や音楽芸術に広く関心を持つような科目を開設している（4-21）。

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

①日本語日本文化学科

日本語日本文化学科の基礎科目では、近代小説の時代背景の分析から文化を学ぶ「近現代文化入門」などの講義を行い、基幹科目では、英語を通して自国文化への興味と理解を深める「英語による日本文化」など、日本語と日本文化に関する授業を行っている（4-20 学部 p. 17、4-21）。また、図書館司書と学芸員の専門資格課程を有しているため、展開科目では、図書館の理念や役割を学ぶ「図書館概論」などの資格のために必要な教育を行っている（4-20 学部 p. 21）。

②英語英米文化学科

英語英米文化学科の基礎科目では、英語を学ぶ意義と国際理解の精神を教育する「英語圏文化入門」などの講義を行い、基幹科目では、英語の必修科目に加え、留学先で英語による授業を受講するために必要なスキルを身につける「留学のための英語」など、目的に合わせた英語教育を行っている（4-20 学部 p. 80、p. 91）。また、展開科目では、翻訳理論を日本語と英語で学んだ上で実際に翻訳を行う「翻訳演習(4)」など、英語と英米文化の知識と技能を活用できるようにする教育を行っている（4-20 学部 p. 121）。

③外国語コミュニケーション学科

外国語コミュニケーション学科の基礎科目では、日本語や外国語のコミュニケーションの基礎となる「ディベート入門」などの専門教育の基礎となる科目を、基幹科目では、必修の外国語科目に加え、1年次授業からフランス語をできるだけ使用させる「実践フランス語A」などの多彩な選択外国語科目を開設している（4-20 学部 p. 164、p. 177）。展開科目では、比較文化の視点から日中文化の影響関係を学ぶ「日中文化論B」などの発展的な知識と技能を身につける教育を行っている（4-20 学部 p. 207）。

④音楽芸術学科

音楽芸術学科の基礎科目では、「ソルフェージュ」「音楽理論」などで、専門職に就くために必要な基礎知識や技能を教育し、基幹科目では、管楽器の基本奏法を身につける「管楽器奏法(1)」など、楽器と声楽の技能を段階的に教育する（4-20 学部 pp. 240-241）。展開科目では、合理的なピアノ奏法のための理論を学ぶ「ピアニストのための脱力法(1)」など、音楽芸術を学ぶ上で必要な発展的な知識を身につける教育を行っている（4-20 学部 p. 243）。

〈3〉生活環境学部

生活環境学部では、学部基礎科目において、すべての学生にとって専門教育を学ぶ学問的基礎となる「生活環境学概論」をはじめ、衣食住にわたる生活環境の基本を学ぶ科目を開講している（4-22 学部 p. 5）。

①生活マネジメント学科

生活マネジメント学科の学科基礎科目では、「生活経済学」や「家族福祉学」などで消費生活や家族生活における課題解決に必要な知識と技能を教育し、展開科目群では、「ファイナンシャルプランニングA」や「ライフコース論」などで家族発達の視点に立ったファイナンシャルプランナーをめざし、家族福祉を踏まえたライフプランができるよう教育する（4-22 学部 pp. 6-7、p. 9、p. 17）。また、学びの基礎として「情報処理演習(1)」や「情報統計学」などで情報活用能力を身につける授業を行っている（4-22 学部 p. 8、p. 19）。

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

②環境デザイン学科

環境デザイン学科の学科基礎科目では、演習形式でデザインの基礎を学ぶ「カラーコーディネート演習」などの、いずれのコースでも必要となるデザインに関する知識と技能を教育する（4-22 学部 p. 43）。展開科目では、生活のノーマライゼーションの実態や問題点を考える「ユニバーサルデザイン論」や現代の住まいと生活のスタイルについて考える「住生活論」インテリア計画を図面資料としてまとめてプレゼンテーションする「インテリアコーディネート実習」など、3 コースにわたる多様な知識と技能を身につける授業を行っている（4-22 学部 p. 54、p. 56、p. 64）。

③食環境栄養学科

食環境栄養学科の展開科目では、管理栄養士養成課程として必要な教育内容を実施している。栄養関連プログラムの作成から実施までを学ぶ「公衆栄養学（1）」や臨地実習の事前事後指導の心得を学ぶ「栄養総合演習」など、管理栄養士に必要な知識と技能を講義と演習を通して教育する（4-22 学部 p. 86、p. 98）。研究演習系科目群では、1年次より食生活の指導者としての高い意識を持たせる「食環境学演習（1）」などの演習を行っている（4-22 学部 p. 100）。

〈4〉現代文化学部

現代文化学部では、学部基礎科目の「現代文化概論」「現代文化基礎演習」を通して、すべての学生に専門教育に必要な多角的視野と学修スキルを身につけさせる授業を行う（4-21）。

①国際社会学科

国際社会学科の学科基礎科目では、日本を国際社会の中でどう位置づけるかを学ぶ「世界のなかの日本（日本社会論）」などの国際社会で生きるために必要な知識と技能を教育し、スキルを身につける科目では、英語を学ぶ「EIC（1）」などの外国語教育を実施している。テーマを学ぶ科目では、国際的文脈の中で成長と停滞のメカニズムを理解する「アジア経済発展」などの社会科学的な研究方法を身につけさせる教育を行っている。

②情報文化学科

情報文化学科の学科基礎科目では、専門教育のガイダンスとして位置づけられる「コンピュータ基礎（マルチメディア）」などの最新の情報技術に関する基礎知識と技能を教育し、展開科目では、文化的社会的な視点から情報デザインの応用事例である「CM制作」などの情報文化的な意味を理解し、コンテンツ制作の実践を促す教育を行っている。また、「卒業論文・卒業制作」では、論文執筆と作品制作の成果として「卒業展」と称する発表会を開催している。

③コミュニティ福祉学科

コミュニティ福祉学科については、人間科学部に移動後も多くの授業科目が引き継がれているので、ここでは省略する。

〈5〉国際情報学部

国際情報学科の基幹科目において、初年次教育として「WLI A・B」を必修としている（4-23 学部 pp. 7-8）。この科目は、「現代社会と女性」という共通テーマを設定した講

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

義科目「国際情報概論」と組み合わせて、授業を行っている。1年次からリーダーシップを発揮できる能力を育成するため、同時に開講する全クラスで共通の課題にもとづいて授業を進めている。さらに、展開科目として、2年次の「WLI C・D」を開設し、下級生の指導や学生による講演会企画などを通して、初年次教育で身につけたリーダーシップの実践を促す教育を行っている（4-23 学部 p. 20）。また、時事的な経済的課題について正しく見通すことをめざす「経済のグローバル化（経済学）」や情報化社会の基盤となる技術や通信等への見識を深める「情報学総論」など、9分野の総論となる科目を開設し、幅広い学びへの入口としている（4-23 学部 p. 17、p. 26）。

〈6〉人間科学部

人間科学部の学部共通科目では、人間に対する多様なアプローチの基本を提示する「人間科学概論」などの人間理解に必要な専門知識を教育している（4-24 学部 p. 16）。

①現代子ども学科

現代子ども学科の学科基礎科目では、学生それぞれに子どもや教育と保育について考えさせる「教育人間学」などにより子どもや教育、保育に関する基礎知識を与え、学科展開科目では、実施の保育の展開事例からキリスト教教育への理解を深める「キリスト教教育学」などの特色ある授業を行っている（4-24 学部 p. 17、p. 54）。演習科目では、子どもに関わる現代的テーマを理解し、保育や教育の実習への準備を行う「子ども学基礎演習」などの専門教育における思考力と実践力を身につける教育を行っている（4-24 pp. 42-43）。

②多元心理学科、心理学科

多元心理学科の学科基礎科目では、心理学の幅広い分野について具体的かつ実践的な展開を理解する「多元心理学入門」などの各ユニットにおける学びにつながる授業を行い、学科展開科目では、健康管理の重要性とそのために必要な知識と方法を学ぶ「健康心理学概論」など、ユニットごとに体系的な授業を展開している（4-24 学部 p. 75、81）。演習科目では、心理学研究で必須となる調査研究の流れを実践的に学ぶ「多元心理学基礎演習」など、思考力と実践力を身につける教育を行う（4-24 学部 pp. 96-98）。

心理学科社会心理学専攻と臨床心理学専攻の教育内容は、多くが多元心理学科に引き継がれたので、ここでは省略する。

③芸術・芸術療法学科

芸術・芸術療法学科の学科展開科目では、リズム、メロディー、ハーモニーの認知と音楽的発達について学ぶ「音楽心理学」や芸術体験の教育的意義を理解する「芸術教育論」などの芸術表現や芸術療法的援助を身につけることができる教育を行う（4-24 学部 p. 123、p. 134）。

④コミュニティ福祉学科

コミュニティ福祉学科の学科基礎科目では、コミュニティ再生のための住民活動を理解する「コミュニティ福祉論」など、コミュニティ形成に必要な専門知識の基礎を教育し、学科展開科目では、キリスト教福祉に対する理解を深め、自らの見識を表明できるようにする「キリスト教社会福祉」など、特色ある福祉教育を展開する（4-24 学部 p. 162、p. 167）。演習科目では、1年次から学科の理念を理解し、大学生に必要な学習スキルを身につける「コミュニティ福祉基礎演習」などの段階的な思考力と実践力を身につける授業を行う

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

(4-24 学部 p. 176)。

〈7〉薬学部

薬学部薬学科の基礎科目では、薬学部出身者の社会での活躍と薬剤師の職能を理解させる「薬学概論(2)」など、社会に貢献できる薬剤師の重要性を学生に伝えている(4-25 学部 p. 7)。また、基幹科目では、適切な薬物治療に参画できるようになるための基礎知識を身につける「薬物治療学(1)」など、医療薬学の基礎を教え、展開科目では、局方収載試験法や機器分析法の原理と測定法を学ぶ「機器分析学」などの応用知識を教えている(4-25 学部 p. 24、p. 26)。演習科目では、複数分野にわたる調査能力と既得知識を総合した思考力を養う「CBL(1)」をはじめとして、シナリオ課題解決を通して、学生が思考力、実践力、コミュニケーション力を身につけることをめざしている(4-25 学部 p. 29)。

〈8〉文学研究科

①国文学専攻

国文学専攻では、近現代を対象とした文学研究や文化研究の理論と分析方法を学ぶ「国文学演習Ⅳ(1)」など、前期課程において修士論文を作成する自律的研究能力を涵養する教育を行う(4-26)。

②英文学専攻

英文学専攻では、基本文献を精読し、生成文法の基礎的な考え方と重要概念を学ぶ「英語学特論Ⅰ(1)」など、問題意識を持って検討し、自律的に研究することを学び、修士論文の作成に必要な能力と態度を身につける授業を行う(4-26)。

③社会学専攻

社会学専攻の前期課程では、基礎科目の「社会学概論(1)」において現代社会における女性問題を複数の専門領域から理解する教育を行い、研究を進める上での共通の視点を与えることから教育を始めている(4-26)。

〈9〉人間生活学研究科

人間生活学研究科では、データ処理の重要性と技法を学ぶ「人間生活学研究法Ⅰ」などの共通科目を開設している(4-27)。

①消費者科学専攻

消費者科学専攻では、国内外の文献講読と関連分野の研究情報を把握する「生活の質特論研究演習Ⅰ」など、前期課程において修士論文を作成するために必要な知識と技能を教育する(4-27)。

②人間発達学専攻

人間発達学専攻では、投影法的人格審査の実施法と分析法を学ぶ「臨床心理学査定演習Ⅰ」など、前期課程において研究者だけでなく、臨床心理士などの専門的職業人養成をめざす教育を行っている(4-27)。

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

2. 点検・評価

●基準4「教育内容・方法・成果」のうち「教育課程・教育内容」の充足状況

本学では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づき、すべての教育課程を編成している。共通教育では、学科によって卒業要件単位が異なるものの、本学の理念を学ぶことができる科目を開設しており、専門教育では、初年次教育などで先進的な取り組みをしている学部もある。以上の点から、本学はおおむね求められる基準を充足していると判断できる。

①効果が上がっている事項

〈1〉大学全体

共通教育科目には、金城アイデンティティ科目をはじめとして、理念を反映した教育をすべての学生が学ぶことができるようになってきている。「金城学院大学2012年度意識調査学生アンケート」問22では、授業科目の種類に対して、80.3%の学生が肯定的な評価をしており、バランスのとれた共通教育科目と専門教育科目を編成できていることが確認できる。また、共通教育委員会の設置により、安定的な共通教育科目の運営と定期的な共通教育科目の見直しができる体制が構築できている。

〈2〉文学部

音楽芸術学科の設置にともない、「文学部リベラルアーツ」を開設した。これによって、学科の壁を越えた文学部としての学びが可能となっている。外国語コミュニケーション学科では、必修科目「ディベート入門」において、すべての言語運用能力の基礎となるコミュニケーション力を高める教育を行っている。音楽芸術学科では、展開科目に「文化・鑑賞」「教養」を学ぶ科目を開設しており、文学部に設置された特色を活かした教育課程となっている。

〈3〉国際情報学部

国際情報学科は、現代文化学部国際社会学科と情報文科学科の教育内容を発展させたものであるが、単に2学科を合併しただけでなく、必修科目の「WLI」と「KIT」に見られるように、新学科として意欲的な教育課程を編成しようとしている。特に「WLI」は、学部単位での初年次教育として高く評価できる。

〈4〉文学研究科

社会学専攻の「社会学概論」は、学生が専攻内のさまざまな分野を学んでいく際に共通した視点を与えることをめざしており、大学院教育における基礎教育として効果をあげている。

〈5〉人間生活学研究科

専門的職業人を養成し、社会の要請に応えるため、前期課程の消費者科学専攻では「消費生活特論」「消費生活特論研究演習」「生活の質特論」「生活の質特論研究演習」を、人間発達学専攻では、発達分野に「発達環境学特論」「発達環境学演習」を、臨床心理学分野に

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

「臨床心理学特論」「臨床心理学査定演習」「臨床心理基礎演習」「臨床心理演習」「臨床心理学研究演習」を開設し、臨床心理士などの資格に対応した教育課程を編成している。

②改善すべき事項

〈1〉大学全体

共通教育科目のうち、教養展開科目については、ねらいが明瞭でないため、科目の選択や科目群の位置づけを見直すことを考えるべきである。「情報リテラシー」と「キャリア開発A・B」については、すべての学科の必修科目とはなっていないので、すべての学生に、同じ水準の知識や技能が身につくように担保できるよう検討する必要がある。一部学部で初年次教育が行われているが、大学として初年次教育をどう位置づけるべきか議論がなされていない。

〈2〉文学部

文学部では、学部単位での初年次教育が行われていないので、初年次教育に対する議論を重ねることが求められる。4 学科すべてで「情報リテラシー」が必修となっていないので、文学部として、情報リテラシーをどのように身につけさせるか議論が必要である。

〈3〉生活環境学部

環境デザイン学科では、学部単位での初年次教育が行われていないので、初年次教育に対する議論を重ねることが求められる。また、食環境栄養学科では「キャリア開発A」が必修となっていない。キャリア教育についても、すべての学生が同じ水準の知識や技能を身につけるのが理想であるため、必修科目とするか、「キャリア開発A」の教育内容を、専門教育科目で学べることを担保する必要がある。

〈4〉人間科学部

人間科学部では、学部単位での初年次教育が行われていないので、初年次教育に対する議論を重ねることが求められる。3 学科すべてで「情報リテラシー」が必修となっていないので、人間科学部として、情報リテラシーをどのように身につけさせるか議論が必要である。

〈5〉薬学部

薬学部では「キャリア開発A・B」が必修となっていない。キャリア教育については、すべての学生が同じ水準の知識や技能を身につけるのが理想であるため、「キャリア開発A・B」の教育内容を、薬学部として専門教育科目で学べるよう工夫する必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

①効果が上がっている事項

〈1〉大学全体

今後も共通教育科目を安定的に運営し、教育内容を改善していくために、共通教育委員会の機能強化を図っていく。そのため、2014年度の大学教務委員会活動目標には、「(2) 2015年度共通教育カリキュラム改定に向けた準備作業の遂行」を項目として立てた**(4-6「大学教務委員会活動目標」)**。2015年以降は、金城アイデンティティ科目の充実など、本学の理念を具体化できる教育課程の実現をめざし、すべての学生が大学ディプロマ・ポリシーの示す能力を身につけられるようにする。

〈2〉文学部

FDセッションとして「文学部リベラルアーツ」を取り上げ、文学部教員で理念を共有するとともに、文学部教務委員会において、「文学部リベラルアーツ」を円滑に運営していくための体制作りを行う。「文学部の近未来を話し合う若手教員の会答申」の内容に基づき、文学部として魅力ある教育課程を実現することをめざしていく。

〈3〉国際情報学部

「WLI」と「KIT」は学科の理念を具体化した科目であるため、2014年度の活動目標には、「(2) KITの運営と充実」「(3) WLIの取り組み」を項目として立てた**(4-6「国際情報学部自己評価委員会活動目標」)**。それぞれの専門委員会を設置して、完成年度に向けて授業運営の現状を検証し、教育内容を充実させていく。

〈4〉文学研究科

国文学専攻と英文学専攻の多分野展開にともない、専攻としての共通視座や研究基礎力が重要になってきているので、社会学専攻の「社会学概論」に相当する基礎科目を導入するため、研究科FD委員会と研究科委員会で検討を開始する。

〈5〉人間生活学研究科

前期課程では臨床心理士、シニア産業カウンセラー、消費生活アドバイザー、消費生活専門相談員、ファイナンシャルプランナー、繊維製品品質管理士などの専門的職業人の養成に対応しているが、他大学の取り組みを学び、人間生活学研究科の教育内容が、さらに社会の要請を応えたものするための検討を開始する。

②改善すべき事項

〈1〉大学全体

学生に教育体系をわかりやすく示すため、2014年度の大学教務委員会活動目標には、「(1) 科目番号制の導入、カリキュラムマップ並びにカリキュラムツリーの作成と公表」を掲げ、科目番号制やカリキュラムマップとカリキュラムツリーを導入していく**(4-6「大学教務委員会活動目標」)**。また、共通教育科目において、すべての学生が学位授与方針の求める能力を身につけられるよう、共通教育委員会で到達目標について検討していく。情

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

報教育科目やキャリア開発科目のように、一部の学科が必修化していない科目についても、同じ水準の知識や技能が、専門教育科目で身につけることができるように、教育内容を明確化していく。また、国際情報学部や薬学部のように、学部単位での初年次教育は行われていることを踏まえ、大学全体として初年次教育をどのように位置づけるか、大学教務委員会で話し合っていく。

〈2〉文学部

文学部の初年次教育をどう考えるのか、FD講演会などを通じて、他大学の取り組みについて学ぶとともに、今後のあり方について検討を開始する。「情報リテラシー」については、共通教育委員会と連携しながら、2015年の必修をめざす。

〈3〉生活環境学部

学生受け入れの多様化にともない、初年次教育の重要性が増している。生活環境学部では、学科によって初年次教育に対する取り組みに違いがあるので、2014年度の活動目標では、「(2)初年次導入教育の取り組みの推進」を掲げ、現行カリキュラムの見直しを含め、生活環境学部における今後の初年次教育のあり方について検討を行う**(4-6「生活環境学部自己評価委員会活動目標」)**。食環境栄養学科の「キャリア開発A」の未履修については、1年次の必修科目「食環境学演習(1)」を利用して、大学全体が求めるキャリア教育を身につけられるようにしていく。

〈4〉人間科学部

学部単位の初年次教育は、かつて「人間科学基礎演習」において試みた経験があるが、その際には十分な成果が見られなかったことから、学科ごとの初年次教育へと移行している。ただし、初年次教育の重要性は増しているため、過去の経験を活かした上で、学部単位での新たな初年次教育を導入することを検討する。また、「情報リテラシー」についても、情報教育の重要性を鑑みて、2015年の必修化をめざす。

〈5〉薬学部

共通教育委員会と連携しながら、「キャリア開発A・B」の教育内容が、薬学部の専門教育の中で学ぶことができるよう検討していく。

4. 根拠資料

4-7「金城学院大学学則」(既出 資料 1-2)

4-8「2013年度開講コマ数一覧」

4-9『履修要覧 2013 文学部』(既出 資料 1-19)

4-10「共通教育必修単位数」

4-11「金城学院大学 2012 年度意識調査学生アンケート」(既出 資料 1-21)

4-12『履修要覧 2013 生活環境学部』

4-13『履修要覧 2011 現代文化学部』

第4章 教育内容・方法・成果

第2節 教育課程・教育内容

- 4-14 『履修要覧 2013 国際情報学部』
- 4-15 『履修要覧 2013 人間科学部』
- 4-16 『履修要覧 2010 人間科学部』
- 4-17 『履修要覧 2012 人間科学部』
- 4-18 『履修要覧 2013 薬学部』
- 4-19 『履修要覧 2013 大学院文学研究科人間生活学研究科』
- 4-20 『2013 年度シラバス文学部』
- 4-21 大学HP「シラバス検索」(<http://ssskym.kinjo-u.ac.jp/gsyl/>)
- 4-22 『2013 年度シラバス生活環境学部』
- 4-23 『2013 年度シラバス国際情報学部』
- 4-24 『2013 年度シラバス人間科学部』
- 4-25 『2013 年度シラバス薬学部』
- 4-26 「2013 年度シラバス文学研究科」
- 4-27 「2013 年度シラバス人間生活学研究科」